



ささやかな日常に幸福感を覚える子に！

年末に新しい服や靴などを買いそろえてもらって正月を迎えていた幼少時。当時は「盆と正月」という言葉があるくらい貧しく、いくら必要に迫られても服や靴など新調してもらえないことなどめったにありませんでした。それだけに、新しい服や靴を買ってもらったときの喜びはとても大きく、何とも言えない幸福感に包まれていたものです。

それに比べ、いつでも必要なとき、すぐに新しい服や靴を買ってもらえる現代の子どもたちは本当に幸せなのでしょうか。

世界では、5歳以上17歳未満の子どもたちのうち、10人に1人の割合の子どもたちが、今でも学校にも行けず、過酷な労働に従事しているそうです。

ゴミ山をあさって、その中からお金になるものを1日中探し、生活の糧を得ているフィリピンやカンボジアの子どもたち。鉱山で重労働に従事させられているアフリカの子どもたち。その他、危険極まりない劣悪な環境で働かされている発展途上国の多くの子どもたち。

そんな状況を見聞きするたびに、「どの子もひもじい思いをせず普通に学校に通える日本は、なんと幸せな国なのだろう」と思います。

しかしながら、毎年2万人前後の自殺者が出ている国でもあります。

昨年は、若者の自殺率が過去最悪で、「19歳以下の死因の第1位が自殺」だったそうです。この深刻な事実に、果たしてどれだけの大人が危機感を覚え、その責任を自覚しているのでしょうか。

戦争やテロ、飢餓等の恐怖にさらされていないのに、明るい未来を展望できず「生きていても仕方ない」と絶望したり、「学校に行きたくない」「誰とも会いたくない」・・・と心を閉ざしたり、引きこもったりして、幸福感を味わえない日本の現代っ子は、ある意味で不幸だと言えるかもしれません。

映画「学校」で、西田敏行さん演じる先生が「幸福とは何だろうか・・・？」と、生徒たちに問う場面があります。ある生徒が「お金・・・」と答えると、「うん、そうかもね。」と同意した先生。それに対して「いや、違うんじゃないかな・・・」と、疑問を呈した生徒。「だって、お金は使えばなくなるもん・・・。本当の幸福とは、そんなもんじゃないと思う・・・。」—— そこから、みんなで「本当の幸福とはどういうことなのだろう・・・？」と考えに考え、全員が至った結論・・・。

「本当の幸福とは何なのかを学ぶために勉強するんだ。」—— なんと感慨深い台詞でしょう。

家庭でも学校でも「本当の幸福とは何か」を話題にし、いっしょに考える機会を持って、「ささやかな日常に幸福感を覚える子」に育てていきたいものですね。

**「しあわせは
いつも自分の心が決める」**

(相田みつを)

